

令和6年度版「学力向上ポートフォリオ(学校版)」【新開小学校】

⑥	次年度への課題と授業改善策
知識・技能	算数については「知識・技能」の定着が図れた学習内容は多かったが、個人差は大きかった。また、国語においては、漢字や語句の理解について、さらに定着を図っていく必要がある。そのため、今後もICTを活用した学習や習熟時間・学習相談機会の確保、「ドリルパーク」等の活用を継続するとともに、児童一人ひとりの実態に合わせた個別最適な学びを展開できるよう、職員全員で授業改善に取り組んでいく。
思考・判断・表現	学校課題研修テーマ「自ら問いをもち、自分の考えを基に、主体的・協働的に探究する新開っ子の育成～SDGs17の目標と関連付けて～」に向けて授業実践の積み重ね・共有化を図ることができた。来年度は今年度の実践成果を生かし、より多くの教科で主体的・協働的に探究する学習の充実を図っていきたい。

①	今年度の課題と授業改善策	
	学習上・指導上の課題	授業改善策【評価方法】
知識・技能	<学習上の課題>基礎的・基本的な知識・技能の定着に関して個人差が大きく、児童一人ひとりの課題に合わせた個別最適な学びが展開できていない。 <指導上の課題>児童が自分の学習状況を踏まえて反復・習熟に取り組む時間の設定が不十分であり、自ら習得状況を確認する機会が不足している。	⇒ 算数タイムを設定し、「ドリルパーク」等を活用して、基礎的・基本的な計算等の反復・習熟に取り組む。【15分を年間24回の実施】 学力向上タイムを設定し、児童一人ひとりの課題に合わせて学習に取り組む時間を確保したり、学習の振り返りを行う時間を確保したりして、基礎的・基本的な時間の定着を図る。【毎学期末に15分2～3回の実施】
思考・判断・表現	<学習上の課題>難易度の高い課題に対して、粘り強く取り組んだり、協働して解決を図ろうとしたりすることを諦めてしまう場面がある。 <指導上の課題>児童が主体的・協働的に探究する学習の充実を図ることが不十分である。	⇒ 学習を進める中で自分事として課題を設定できるような展開の工夫をしたり、協働的な学びとなるよう、答えが1つではない課題について考えたり、表現したりする活動を取り入れた授業を展開する。【R6年度さいたま市学習状況調査「学級の友達との間で話し合う活動を通して自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」の質問項目において、肯定的な回答の割合が90%以上】

⑤	評価(※)	授業改善策の達成状況
知識・技能	A	毎週月曜に算数タイムを設定し、計算ドリルや「ドリルパーク」等の活用によって、基礎的・基本的な計算の反復・習熟に取り組むことができた。毎週金曜には読書タイムを設定して読書活動を推進するとともに、読み聞かせボランティアによる読み聞かせも各学期に複数回実施できた。学力向上タイムでは、児童一人ひとりの課題に合わせて学習に取り組む時間や、学習のまとめを行う時間を確保して、基礎・基本の定着を図ることができた。
思考・判断・表現	A	「自分事として捉える工夫・進んで活動する工夫・協働的に取り組む工夫」の視点に合わせた授業改善に取り組むことができた。その結果、R6年度さいたま市学習状況調査「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか。」の質問項目において、肯定的な回答の割合は平均して92.6%であり、取り組んだ成果が表れている。

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(概ね達成) C 6割未満(あと一歩)

②	全国学力・学習状況調査結果について(分析・考察)
知識・技能	国語は、「言葉の特徴や使い方に関する事項」については概ねよくできた。しかし、「情報の扱いに関する事項」「我が国の言語文化に関する事項」については課題が見られた。特に情報と情報、語句と語句を関係付ける内容についての理解が不十分であり、個人差も大きかった。複数の情報を様々な方法で整理し、考えをより明確なものにできるようにしていく。算数は、どの領域においても、概ねよくできた。しかしながら、「数と計算」「図形」については学習の成果が見られた一方、「変化と関係」「データの活用」については一部課題が見られた。
思考・判断・表現	国語は、「話すこと・聞くこと」に関する領域はよくできたが、「書くこと」「読むこと」に関する領域は課題が見られた。物語文の学習に加えて、読書活動や読み聞かせの充実、振り返りや感想文などの書く活動をより重視したい。算数はどの領域においても、概ねよくできた。特に「数と計算」「図形」に関する領域では、昨年度の課題であった記述式の問題についても成果が見られた。引き続き、式や答えを導く際、図や言葉と関連付けて記述できるようにしていく。

①結果分析(管理職・学年主任等)

②詳細分析(学年・教科担当)

④	さいたま市学習状況調査結果について(分析・考察)
知識・技能	算数については概ねよくできた学年が多く、特に「数と計算」や「変化と関係」の領域については成果が見られた学年もあった。その他の教科については一部課題がみられた。特に、国語の「言葉の特徴や使い方に関する事項」については全ての学年において課題がみられた。中でも漢字の正しい使い方や、文の中の主語と述語の関係についての理解が不十分であり、個人差も大きかった。
思考・判断・表現	算数については概ねよくできた学年が多く、特に「図形」に関する領域では、図形との特徴や構成する要素を基に判断することができた学年が多かった。その他の教科については一部課題が見られた。特に国語の「読むこと」に関する領域は、学年が上がるについて課題を抱えた児童の割合が増えた。読書活動や読み聞かせの充実を継続するとともに、登場人物の気持ちの変化を読み取らせる学習をより重視したい。

③	中間期報告		中間期見直し
	評価(※)	授業改善策の達成状況	授業改善策【評価方法】
知識・技能	B	業前の時間に設定した算数タイムや、学期末に実施した学力向上タイム等を活用することで、基礎的・基本的な計算等の反復・習熟や定着を図ることができた。今後も計画的に学習を進めるとともに、児童一人ひとりに合わせた反復・習熟に取り組む、個別最適な学びの充実を図っていく。	変更なし
思考・判断・表現	B	ICTを効果的に活用し、課題設定を工夫したり、協働的な学びを取り入れた授業を展開したりすることができた。今後は学校全体で課題の共有を図るとともに、研修の視点である「自分事として捉える工夫・進んで活動する工夫・協働的に取り組む工夫」をより一層重視した授業を展開していく。	変更なし

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(概ね達成) C 6割未満(あと一歩)